

編集後記

◇ 2013（平成25）年を迎えた。わが国を巡る国際政治・経済環境は依然として厳しい局面にある。地球環境の変動も危惧されているが、今年は災害のない平穏な年であって欲しいものだ。また、不作年が続いていたいも類は、久し振りに2012年産のサツマイモ、ジャガイモともにまずまずの作柄状況のようである。2013年産のいも類も、豊作となることを願っている。

◇ 本誌114号の特集は、「サツマイモ焼酎の現在・過去・未来」を取りあげた。サツマイモ焼酎に関する各分野の専門家の方に、それぞれ執筆をお願いした。

1975年以降、“焼酎前線”は南九州から北上を続け、今日では北海道を含めて全国に普及定着している。本特集では、様々な角度からサツマイモ焼酎の実態に迫る内容となっており、時代を経て進化を続けていることが解る。この特集を一つの契機として、サツマイモ焼酎に関する知識・理解を一段と深め、今後、一層いも焼酎を愛飲いただきたい。

◇ 2012年10月13日の“サツマイモの日”に、埼玉県川越市の妙善寺で行われた「第18回いも供養」に出席した。川合善明川越市長の挨拶の中で、減少が続いていた“川越いも”の生産減少も下げ止まりの状況にあり、今後はサツマイモを核とした6次産業化を目指したいとの元気な話があった。

いも供養の講話では、東京国際大学のBarry Duell教授から、今から38年前の来日当時、日米間における厚い文化の壁を「川越いも友の会」での活動を通じて乗り越えていった様子をユーモアを交えて話され、会場は和やかな雰囲気包まれた。本誌114号の巻頭言は、その講話の再現である。

◇ 「2012年度ポテトフォーラム」は、2012年12月6日、札幌市の「共済ホール」で開催された。約300人の参加者があり盛況であった。2012年産ジャガイモの作柄が、3年連続の不作から脱し、まずまずの状況であったため会場にはやや安堵感が広まっているような印象を受けた。

◇ 『サツマイモの近代現代史ー甘藷問屋川小商店136年の軌跡ー』の単行本が、2012年10月に（財）いも類振興会から出版された。その内容は、本誌の58頁で紹介しているとおり、サツマイモが明治維新から現在までに辿った約150年間の歴史を鳥瞰した内容となっている。是非、購入し一読いただきたい。

（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第114号

2013（平成25）年1月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料（季刊） 2,000円

発行 財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225
E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社